

和顔愛語（わげんあいご）

校長

以前、校長講話で、冒頭の「和顔愛語」（わげんあいご）という漢字4文字を子どもたちに示し、「みんなの心をまるくする魔法の言葉」として紹介しました。この「和顔愛語」とは、「大無量寿経」というお経の中にある仏教用語で、和やかな笑顔と思いやりのある話し方で人に接することを表しています。この言葉は、さらに「先意承問」（せんいじょうもん）と続きます。これは相手の気持ちを先に察して、その望みを受け取り、自分が満たしてあげるという意味だそうです。つまり、「和顔愛語 先意承問」とは、和やかな顔と思いやりの言葉で人に接して相手の気持ちをいたわり、先に相手の気持ちを察して、相手のために何ができるか自分自身に問いただすということになります。辛い時やいやなことがあった時、愚痴をこぼしたくなる時、そんな時こそ、まず自分から笑顔と優しい言葉で周りの人に接する姿勢、それが「和顔愛語」です。しかしながら、自分自身が「和顔愛語」を実践するとなると、なかなか容易なことではありません。気分が優れない時は、なかなか笑顔になれないものです。そこで大切なのが「先意承問」、つまり「相手のことを先に考えて、与えること」です。笑顔で優しい言葉をかけてほしいのならば、まずは自分から相手に笑顔で優しい言葉をかけてあげる。徳の高いお坊さんからそんな話を聞くと「なるほど」と得心もしますが、なかなか自分のような凡人にはこれが難しいものです。大切なのは、思いやり。私たちが穏やかに生きるためには、自分も相手も、ともに思いやることを心がけていけば、心がまるく穏やかになるんだと、今日も心に言い聞かせる毎日です。

さて、小中学部交流やフレンドリー活動で、上級生が下級生に優しく笑顔で接している姿を見て、とても感心しています。



異学年との交流を楽しむ本校の子どもたちは、「和顔愛語 先意承問」を実に上手に実践しているではありませんか。大人は、日頃から心がけなければできませんが、子どもたちは自然体で、ありのままに自分より年下の子を気遣い振る舞うことのできる素晴らしい力を持っていると、改めて子どもたちの姿から学びました。

ありがとう！ロン日っ子・ロン日生たち。

非常時一斉引き渡し訓練

10月10日に、「非常時における一斉引渡し下校訓練」を実施いたしました。本校は、英国にあることから、積雪や悪天候時への備えとともに過去の暴動やテロ関係の事例をふまえて、危機管理体制の確認を定期的に行うことが必要です。そのための取組として学校と保護者の皆様との連携協力に基づく「緊急かつ安全な一斉引き渡し下校」の対応訓練が必須です。今回は、緊急一斉メールによる情報発信となりましたが、おかげさまで皆様のご協力により短時間のうちに適切な下校ピックアップの全校シミュレーションを実施することができました。ご協力ありがとうございました。今後も緊急一斉メールについては、必要だと判断した際に一斉送信を行います。受信した際は速やかに返信いただきますよう、今後ともよろしく願いいたします。



Designated Safeguarding Officer

本校職員の関根彰子先生が、Safeguardingの資格を取得しました。英国で学校教育に必要な資格であり、これにより英国のルールに基づいた本校教育の展開が、より一層期待されます。この場を借りて、保護者の皆様を紹介いたします。



文化祭を終えて

和衷協同 ～世界に一つの固い絆で～

9月29日(土)、第42回ロンドン日本人学校文化祭の保護者公開が無事に終わりました。今年度のスローガンは「和衷協同～世界に一つの固い絆で～」でした。今年度はメインスローガンが中学部、サブスローガンが小学部のアイデアで制作されました。7月の運動会準備と並行しながらの活動でしたが、子どもたちはスローガンの話し合いや原稿作りなど、主体的に活動しました。中学部生徒会がリーダーシップを発揮し、全体を引っ張ってくれたおかげで、前日準備もスムーズに進めることができました。当日の係ごとの活動も、練習や係打合せを十分に生かして、効率的に手際よく動いている姿が印象的でした。それぞれの学年の劇や演奏、合唱も工夫を凝らしたもののばかりでした。舞台裏を行き来する機会が多く、リハーサル時から何度も発表を見る機会がありましたが、子どもたちの一生懸命な姿に毎回心を動かされました。当日ご来場いただきました保護者の皆様から温かい拍手をいただき、子どもたちも充実感いっぱいの感動あふれる文化祭となりました。今回の文化祭で味わった協力や助け合いの気持ちを、今後の学習活動に生かしてほしいと思います。

ふしぎなすいしょう2

小学部1年生

小学部1年生は「ふしぎなすいしょう2」を演じました。夏休みから台本の音読練習を始めました。2学期の練習では、自分のせりふだけでなく、場面全体のせりふを暗記している児童もいて、とても感心しました。



初めての舞台練習では、ステージ上からの眺めに恥ずかしがり、不安そうな声が聞かれました。緊張からか、下を向いてせりふを言う子や、せりふを言いながら動くことが難しい子が多く見られ、自信をもって演技できるまで、繰り返し練習を続けました。時には、お互いに演技を見合っ

て直した方がいいところをアドバイスし合いました。友達から演技を褒めてもらえることは、子どもたちにとって大きな励みになり、舞台上でも堂々と演技ができるようになりました。

お客さんを楽しませるために、「恥ずかしがらず本気で演技」「楽しい動きも真剣に」を合言葉に、本番では練習の成果を出し切って、のびのびと演技をした1年生。演技終了後は、「どうでしたか?」「時間は間に合いましたか?」と劇の出来を気にしながらも、喜びの表情を浮かべていました。保護者の皆様からいただいた大きな拍手は、子どもたちのさらなる自信につながったと思います。

みんなで味わった演じる楽しさ

小学部2年生

小学部2年生は「町いっばいに音楽を♪」を4曲の歌を交えて演じました。音楽であふれた楽しい町に、音楽が大嫌いな新しい王様がやってきて、



音楽を一切禁止するところから物語が始まります。混乱した町にネズミや不思議な笛吹きが登場し、町の人たちに音楽を取り戻していくお話です。

「あなたのせりふは、みんなのせりふ。みんなの思いを乗せて伝えましょう。」と話し、練習を開始しました。子どもたちはその言葉を素直に受け止め、一生懸命練習に励みました。腹式呼吸を覚え、発声練習に取り組み、楽しく練習が進みました。衣装を身に付け、BGMやライトを入れた練習になると、せりふの声や動きがさらに大きくなり、人物の気持ちを考えて役になりきっていききました。

演じる楽しさを味わいながら、子どもたちは自信を深め、本番では最高の演技を見せてくれました。ステージ上で子どもたちの輝きは、私たちの予想を超えていました。「歌えバンバン」の歌が終わり、観客の皆様からの拍手を体いっぱいを受けた後、子どもたちは口々に「楽しかった。」と言って、ステージを降りてきました。最後まで努力し、みんなで創りあげた今年の文化祭は、子どもたちをきっと新たなステージへとつないでくれることでしょう。

子どもたちが創りあげる劇を目指して

小学部3年生

3年生は子どもたち自身が創る劇を目標に取り組んできました。4月に国語で勉強した、子どもたちが大好きな「きつつきの商売」を題材に、子どもたちが書いた続きをヒントにシナリオを書きました。理科や算数の勉強に関係することや、3年生で初めて習ったリコーダーの成果もふんだんに取り入れました。衣装や小道具も子どもたち自身が考え、作りました。どんどん小道具が増え、教師が思いもつかない物も作るなど、自分たちで劇のイメージを広げていきました。休み時間に自主的に集まって、せりふや動作の練習などを行っている姿が、あちらこちらで見られました。なかには友達の家を集まって練習をした子もいたようです。せりふを自分たちで変えたり、増やしたり、効果音にもいろいろなアイデアを出してくれました。小道具を自分たちで並べたり片付けたり、自分たちで劇を進行していました。



校内発表の演技が終わった後も自分たちの演技に納得できないと、練習を申し出てきて、保護者公開日直前まで自分たちで劇の質を高めていきました。それぞれが知恵を出し合い、工夫を重ねて積み上げた劇。3年生として立派にやり遂げることができたと思います。

Made in Dream. 夢を信じて…

小学部4年生

「Made in dream. 夢を信じて…さあ一緒に！」劇の最後に歌った「Dream & Dream ～夢をつなごう～」の歌詞の一部です。



この歌にも表現されている、自分を信じることや夢見ることの大切さを伝えようと、4年生は「レンタル夢ショップ」という劇の練習に励んできました。

子ども達は毎回の練習を楽しみにし、意欲的に取り組んでいました。しかし、練習の過程では、集中力が切れ、踊りが合わなかったり、せりふのタイミングが違っていたりと、まとまりが必要な時もありました。そんな時には、この劇で伝えたいことは何

か、それを伝えるためにはどうするべきかを何度も考えました。そして、練習から全力で取り組む姿勢が、夢を本気で考える気持ち、夢を大切に思う気持ちにつながるのだと気付くことができました。

迎えた本番当日。自分が舞台上に立っている時だけでなく、舞台袖でも大きな声で劇中歌を歌ったり、これから舞台上がる友達に「がんばって。」と励ましの声をかけたりと協力し合い、みんなで一つの劇を創りあげました。そして、最後の歌に夢を信じる気持ちを込めて、笑顔で、全力で歌いあげました。

文化祭を通して学んだ、協力し合う姿勢、自分の夢と向き合う気持ちを、これからの学校生活や、自分自身の将来へと、ぜひつなげていってほしいと思います。

「for ALL & for ONE」

小学部5年生

5年生は、学年目標である「for ALL & for ONE」を合言葉に「ユタと不思議な仲間たち」を演じました。



ユタをいじめるインパクトのある演技をした第1幕。ユタと座敷童との出会いを表現した第2幕。劇に笑いというスパイスを加えた第3幕。ユタの成長をダンスで表現した第4幕。ユタと大作グループの決闘、仲良くなるシーンを演じた第5幕。ユタと座敷童の別れの第6幕……。そして、最後の歌「ともだちはいいもんだ」。

一人ひとりが「for ALL」みんなのために、大きな声を出したり、間や仕草を考えたりしました。「for ONE」一人のためにアドバイスをしたり、応援したりしてきました。そうして、一幕一幕ができあがり、1幕から2幕へ、2幕から3幕へとバトンが渡り、最後の歌に繋がっていきました。だからこそ、多くの人に感動を伝えることができたのだと思います。

文化祭に向けて一生懸命頑張ってきた5年生は、「劇を成功させる」「最高の劇を創る」という同じ目標をもった「仲間」や「同士」だったように思います。文化祭で得た力をこれからの生活や学習で生かしていけば、5年生の残り半分がきらきらした素晴らしいものになると思います。今後、5年生がどこまで成長していくのか楽しみでなりません。

最高の表現力と団結力

小学部6年生

合唱曲「COSMOS」を歌い終えた子どもたちの表情は、スポットライトを浴びてきらきらと輝いていました。「全ての力を出し切った。」「みんなで劇を創りあげた。」そんな清々しい様子が伝わってきました。6年生の力を集結し、これまで練習してきたことを発揮すること、みんなで最高の劇を創りあげることができました。「子どもたちが持っているパワーはすごい。」文化祭を通して改めて感じることができました。

6年生にとって、文化祭までの道のりは決して順風満帆なものではありませんでした。写生大会を終えて、本格的に始まった劇の練習。監督、助監督、場面リーダーを決めて練習を行いました。はじめは、「みんなで協力して最高の劇を創る」という思いは感じられませんでした。台本通りの言葉を発している子が多く、早口で間もしっかりとれておらず、臨場感が伝わってきませんでした。しかし、監督、助監督、場面リーダーが中心になって、演技について意見を述べ合い、良さだけでなく改善点も出し合いながら練習したことで、一人ひとりの意識が変わってきました。それが演技にも生かされるようになり、さらに磨きをかけることで、6年生の劇「権蔵太鼓」が感動的な劇へと仕上がったのだと思います。

文化祭を通して、表現力の向上はもちろん、みんなで



協力して一つのものを創りあげる素晴らしさや互いを信頼し合うことの大切さを学ぶことができました。この行事で得た経験を、今後の教育活動にも生かしていきたいと思います。

時をつなぐおもちゃの犬

中学部

今年度の中学部劇は、英国の児童作家、マイケル・モーパーゴ作「時をつなぐおもちゃの犬」をもとに台本を作成しまし



た。第二次世界大戦中につくられた木のおもちゃ「リトルマンプレート」を通して国籍の違う、世代を超えた人々が繋がっていく物語です。「たとえ戦争中であっても、人々はつながっていける」、「互いを信じて生きていくことで新しい未来をつくることができる」など、「人と人のつながり」や「人を信じる」ことの大切さを訴えた内容です。

劇を創るにあたって目標にしたことは、互いに協力しながら生徒の手で創りあげることです。夏休み前には、登場人物の



性格をプロットリーダーが考え、夏休み明けに人物像リストを作成しました。プロットリーダーからは、「せりふを〇〇のように変えてもよいですか。」などの要望があり、監督、助監督を中心にキャストが試行錯誤しながら、せりふの言い回しや立ち位置などを工夫し、よりよい劇をめざして活動しました。

また、今年度は戦艦のシーンがあったため、道具係は制作に時間をかけました。さらに、船の大砲を支えたり、波を揺ら



したりするなど、裏方として陰ながらもキャストの演技をしっかりと支えました。音響係や照明係もタイミングに細心の注意を払い、台本に注意点を書き込むなど、練習に余念がありませんでした。

このような準備を経て迎えた文化祭保護者公開日の劇は、これまでの練習の中で最高の出来となりました。それは高まる緊張の中で、生徒一人ひとりが役割を自覚し、自分のできる最高のパフォーマンスを表現したからです。劇の合間に披露した3曲の合唱も、中学部が一体となって堂々と奏でるハーモニーに鳥肌が立ちました。劇終了後、菩提樹に中学部の生徒たちが集まった時、一人ひとりの顔に達成感が満ち溢れ、まさに今年度の文化祭スローガン「和衷協同」が達成された瞬間でした。

今年は、第一次世界大戦終戦100周年を迎えます。11月に入り、英国内でも様々なイベントが催されています。今回の劇への取り組みを通して、生徒が「絆」、「つながり」の大切さを実感し、今後の学校生活につなげてほしいと思います。